

## シリーズ「放課後子ども教室推進事業」 (初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン掲載))

### 【第14回】

#### わくわくするメニューいっぱいの放課後学校

北海道砂川市立豊沼小学校長 浅尾 三吉

大人でも参加したくなるような楽しい魅力的な活動を毎回実施しているのが、豊沼小学校地区放課後学校だ。

「探検タイム」「達人短歌・野球等タイム」「夏休みタイム (ローレル見学；民間の工場見学)」「夏タイム (プール)・冬タイム (そりすべり)」「出張公民館 消防タイム」「収穫の秋お出かけタイム」「劇団タイム」「みんなで散歩タイム」「ジャリン子ハロウィン特別タイム」等々、ネーミングを見るだけでも心が躍る。場所は学校やグラウンドだけではなく、時には、近くの公園や工場、重機置き場、畑などにも移動し、指導員が安全に配慮した中、見学や体験学習を行っている。

「継続タイム」もあり、けん玉・竹馬・縄跳び・一輪車などをしている。検定があり、どの子ども意欲的に取り組んでみるみる上達している。

さらに、「こつこつ勉強タイム」もあり、家庭学習や宿題などもここでしている。頭を寄せ合って真剣に学習する姿も、微笑ましい。

「紙芝居」や「本の読み聞かせ」も子どもたちの人気のメニューの一つだ。

読み聞かせする指導員の語り口に引き寄せられ、子どもたちだけでなく、参観している大人も、物語の主人公と一緒に歌ったりしてしまう。

「継続タイム」の道具類は体育館に置いてあるので、学校の授業や遊び時間に使うことができ、放課後学校の子が遊びのヒーローになる場面もみられる。

指導者も、ボランティアの保護者・地域・プロの方など多士済々だ。

特に保護者の指導員の果たす役割が大きい。良質の地域の教育力を最大限に発揮できている。大きなダンボールいっぱいの建築廃材を利用したドミノ倒し用の遊び道具など、学校では思いつかないアイデアも随所に見られる。

市民向けに発行される事務局 (放課後子ども教室運営委員会) の通信「放課GO→GO→！」を読むと、活動の様子や次の月のメニューがわかりやすく書かれている。また、これとは別に、子ども1名から3名が中心になって発行している毎回人気の特派員通信「ほうかゴーゴー！」がある。これは、活動中に、写真と一言加えた形でA3大で発行している。1年生でも指導員に手伝ってもらいカメラも上手に使う作りあげる。学校の廊下の壁にズラーと張り出すので楽しい活動の様子が全校にも伝わる。

そのほか、ここで作った短歌が入選したり、新聞に報道されたりして、子どもや教師にとっても学校の枠を越えた新しい視野を広げる一助となっている。

(初中教育ニュース (初等中等教育局メールマガジン) 第107号に掲載)